

葎屋橋 よしやばし ● Yoshiya-bashi
〈東横堀川〉

東横堀川の北端、大川からの分岐点に架けられている葎屋橋。俗に築地と呼ばれた蟹島への通路として設けられたこの橋は、天明年間に架設されたと考えられている。

この辺りは古くから大川の眺望が非常に良く、料理屋や旅館などが建ち並び、また舟の荷積みや荷下しでも賑わい発展したところで、明治8(1875)年「大阪会議」が開催された花外楼という料亭は今も健在している。

橋の架橋地点は船の往来が多いうえ川の流れも複雑だったため、船が橋脚に衝突する事故が多発したり、大川の洪水時には度々被害を受けたことから、明治初年に橋を架け換えた。橋の架け換えに際しては、川の中に橋脚を設けない画期的な斜張橋(橋の中央部両側に高い柱を建て、その上から太いロープで桁を支える)原理を用いたことで、当時は大変珍しがられた。

葎屋橋通りの道幅が現在のように広がったのは、明治44(1911)年10月の市電開通にあわせ、葎屋橋も単純鋼板桁の広い橋に架け換えた。現在の橋は、昭和41(1966)年に架け換えられたもので、二径間の合成桁が採用されている。

